

日本OR学会創立40周年記念
中国・四国支部シンポジウム ルポ

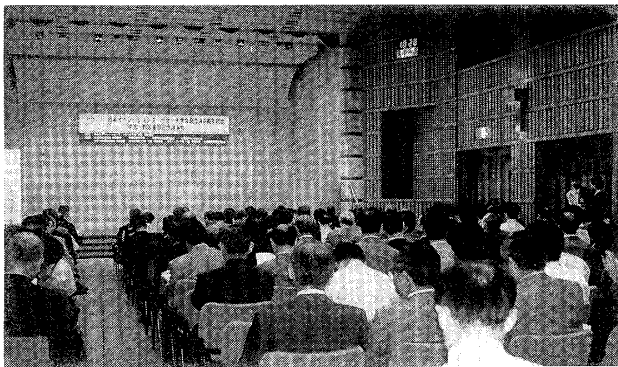


上司 正善 (マツダ㈱), 亀多 正人 (呉大学), 佐藤 泰司 (山口大学), 松廣 斎 (広島工業大学)

平成9年7月11日(金), 中国・四国支部シンポジウムが, 広島市の中国電力会議場を会場に開催された。当日は, 広島県に大雨洪水警報が発令され, 5日連続の豪雨のため, 来賓・講師の方や会員の交通の便が心配されるほどの空模様であった。

また, 今回のシンポジウムは, 各支部のトップをきって開催するため実行委員の顔には緊張感がうかがえた。

午前10時30分から行われた記念講演は, 雨のためか開始10分前の段階では定員400名の会場は六~七分の入り。実行委員が気をもむ中, 直前になって一気に入場者が増え会場はほぼ満員の状態となった。



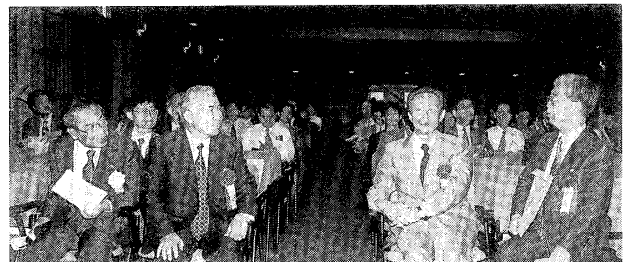
講演会会場

大関副支部長(マツダ)による司会のもと, 貝川支部長の開催挨拶に続き, 日本アイ・ビー・エム北城社長による「ネットワーク社会と経営」の講演が始まった。北城社長はご自身の趣味である野菜作りの話などユーモアを交えてのイントロの後, 本論に入った。インターネットを中心とするネットワーク社会到来の実態に触れ, その中でグローバル化とメガコンペティションが企業の経営環境にとってのキーワードであることを強調された。続いて, インターネット/イントラネットによる経営革新の豊富な事例を紹介し, 本業の強化のため, 経営者自らがインターネットの活用を判断する時代になっていると指摘された。また, 経営革新につながるORの意味に触れ, IBMでのOR取り組み事例として, 倉庫最適配置, 金利シミュレーシ

ン等への適用を紹介され, 最後に, 最適解より近似解によるスピード経営への貢献, 産業界に働きかけるOR学会といったORへの期待を表明され講演を結ばれた。時宜を得たテーマに加え, ORへの力強い応援をいただき, 記念講演は大変好評であった。

また, 記念講演は8学会・団体からの協賛をいただくとともに, 新聞紙上に開催案内が掲載されたため, OR学会会員以外の参加者も多く, 学会活動を一般の方に理解していただく一助となったと思う。

一方, 会場のロビーでは, IBM, NEC, 日立, 富士通各社の協賛で, OA機器・ソフト展示会が前日(7月10日)から開催されていた。会場では, 高分解能衛星画像システム, 気象情報提供システム, モバイルコンピュータ関連機器, 音声ワープロシステムや各種ORソフトなど, 各メーカーの最新技術が展示され, 休憩時間や昼休みには多くの見学者で賑わっていた。



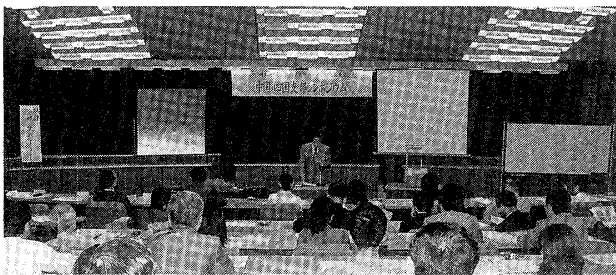
講師の方々

午後1時30分から河合副支部長(鳥取大学)の司会で始まった第II部シンポジウムは, OR学会会員を中心とした報告や支部講演が会議室を変えて行われた。定員80名の会場を越える約90名の参加者があり, 次代を担う学生も多数出席し, 今後のOR活動の発展に意を強くした。

冒頭, 刀根会長の挨拶では, 中国・四国支部シンポジウムの開催に対し謝辞が表明された。続いて貝川支部長(中国電力)から, コンピュータやネットワークが著しい進展をとげている現在, ORツールがますます身近なものとなっており, 今後は社会・企業の実務的諸問題解決への貢献を期待する旨の挨拶があった。

引き続き, 梅沢長期計画委員会委員長から「日本

OR 学会長期計画」, 刀根会長から「経営の科学としての新潮流」と題し報告があった。長期計画報告については、委員の間で10万回のメールやりとり等、議論を尽くした結果とりまとめられたものということで、苦勞の跡がうかがえ、今後の OR 活動の方向性を示したのものとして大変意義深いものであった。また、新潮流報告については、OR の歴史、変遷をわかりやすく体系的に説明され、OR 集大成の感があった。一方で OR の適用、活用の停滞について指摘され、企業は OR による経営効率化にもっと注力すべきとの提言もされた。質疑も活発であり、出席者からは報告内容を本にして欲しいとのリクエストも出された。



シンポジウム

第II部の最後は、日立製作所広瀬部長による「情報家電の動向と将来課題」の講演があった。講師自ら取り組まれているパソコンとテレビの融合という観点から、将来の情報家電の方向性を示すとともに、ネットワークを通じて提供するコンテンツの充実が課題であ

るとの指摘があった。講演の中では、NHK 大河ドラマ「毛利元就」で使用されている CG (コンピュータ・グラフィックス) をビデオで紹介するなど、大変分かりやすい講演で、出席者からの活発な質問・意見もあり、白熱した議論に終始した。

夜の部の懇親会は、午後 5 時 30 分から会場を変えて 55 名の出席者で開催された。海生支部幹事 (修道大学) の司会のもと、貝川支部長、刀根会長、梅沢長期計画委員長長の挨拶に続き、青木支部顧問の乾杯の音頭で開宴した。途中、権藤支部顧問、尾崎支部顧問のスピーチや中野氏 (創立 40 周年記念事業企画推進委員会委員) や平木氏 (広島大学) の飛び入りでのスピーチもあり、少人数ではあるがアットホームな雰囲気であった。また、立食パーティーであったため、多くの人と語らうことができ、大変有意義な情報交換の場となった。シンポジウムも成功裡に終わったこともあり、出席者の顔もほころび、和気あいあいの内に時間も経過し、最後は大関副支部長の三本締めで幕を閉じた。

最後になりますが、中国・四国支部シンポジウムのために、遠路広島までお越しいただき貴重なるご講演・ご報告をいただいた来賓・講師諸先生に感謝いたします。また、ご多用の中、シンポジウムの趣旨にご賛同いただき、快く OA 機器・ソフト展示にご協力いただいた協賛企業および多くの会員のご参加をいただいた協賛学会・団体に感謝します。